

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成27年6月号

編 集  
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15  
一般社団法人 日本病院会 通信教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 日本における周産期医療

福島 明宗

岩手医科大学医学部 臨床遺伝学科 教授  
岩手医科大学附属病院 診療記録管理室長

私は現在遺伝医療の真っ只中で仕事をしておりますが、産婦人科医師としてのキャリアが既に30年を超過していた事を最近知りました。月日の感覚というのは不思議なもので、初めて分娩に立ち会った日をまるで昨日のように鮮明に記憶しております。臨床の現場はまさに人生の縮図であり、悲喜こもごもの物語が短い期間内に形成されていきます。なかでも入院前には1人、退院時には2人になる周産期、産科医療はさらにドラマチックであるといえましょう。

さて世の中には数々のお産神話というものがあるようです。一番代表的なのは「(母親は)お産で死ぬことはない」でしょうか?多くの方は、よもや愛する身内がお産で亡くなることがあるとはこれっぽっちも思っていないでしょう。確かに私も陣痛の痛みに耐えられず亡くなった方を診たことはありません。しかしながら分娩がらみで亡くなる母親が依然として居られるのも事実です。これらの数字を各国の行政機関が毎年統計的にまとめているのが「妊産婦死亡率」です。2010年以降の日本における年間妊産婦死亡数/妊産婦死亡率は40人/4台です。この数字が如何にすごいものであるかを実感頂くには過去の日本での状況、世界の状況を示す必要があります。100年前の日本での年間妊産婦死亡数/妊産婦死亡率は5600人/256、私が生まれた1950年代後半でさえ2500人/139でした。未だ自宅分娩が盛んに行われていた時代です。妊産婦死亡率がようやく10を切った時期、すなわち「万が一」の出来事になったのは1990年台に入る頃であり、つい最近の出来事です。

一方世界的にはどうでしょう? 2013年における妊産婦死亡率は世界全体では210(100年前の日本と同じ)、高所得国では17、低所得国では450です。海外では未だ多くの母親が命がけで新たな生命を迎え入れているのです。それに比べて日本での4という数字、これが如何に素晴らしいものであるかを実感いただけたでしょうか?幾つかの報告によると、ヒトの遺伝形式をもつ生物種の集団である人間社会が到達できる限界値が3~6とも言われております。日本における産科医療の崩壊が叫ばれている昨今、この世界一の数字を維持すべく、多くの努力工夫がなされていることをご理解いただければ幸いです。

一方で未だ年間40人もの母親の命が奪われているのも事実です。周産期、産科医療に携わる者としては、常にこの「万が一」があることを念頭に置き、「お産神話」を「お産実話」にする努力を続けなければならないと思います。皆さんはこれから各種診療記録を通して医療に触れていく訳ですが、診療記録一つ一つには様々な想いや人生が詰まっていることを常に念頭に置いていただき、大切に取り扱いいただければ幸いです。

